

東北地方 1か月予報

(7月3日から8月2日までの天候見通し)

平成16年7月2日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

これまで気温は高く経過してきましたが、2週目にかけては平年並か低くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で天気がぐずつき、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、太平洋高気圧に覆われ晴れる時期がある見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年並か低い、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低い、2週目は平年並か低い、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月 3日(土) ~ 8月 2日(月)

1週目 : 7月 3日(土) ~ 7月 9日(金)

2週目 : 7月 10日(土) ~ 7月 16日(金)

3~4週目 : 7月 17日(土) ~ 7月 30日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月9日

3か月予報：7月22日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	21.2	165.8	152.0	19.5	20.4	22.1
新庄	22.5	185.5	157.0	20.8	21.6	23.4
若松	23.6	159.9	172.4	22.0	22.8	24.4
深浦	21.6	148.9	180.3	19.7	20.7	22.5
青森	21.4	104.4	180.1	19.4	20.4	22.3
むつ	19.9	121.3	153.8	17.9	18.9	20.8
八戸	20.5	115.3	170.2	18.5	19.5	21.5
秋田	23.0	178.3	174.2	21.1	22.0	23.9
盛岡	22.0	168.0	146.4	20.3	21.1	22.9
宮古	20.2	139.4	150.3	18.4	19.3	21.2
酒田	23.4	184.3	184.0	21.5	22.4	24.4
山形	23.4	144.9	158.5	21.7	22.5	24.3
仙台	22.3	159.9	131.2	20.5	21.4	23.2
石巻	21.6	129.0	150.9	19.8	20.7	22.5
福島	23.8	145.8	137.2	22.0	22.9	24.6
白河	22.2	192.0	133.8	20.6	21.5	22.9
小名浜	21.9	124.4	157.8	20.3	21.2	22.7

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3~+0.6	84~114	93~108
東北日本海側	-0.3~+0.5	81~119	90~109
東北太平洋側	-0.2~+0.8	80~115	92~113

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.6	-0.8~+0.8	-0.5~+0.9
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.7~+0.6	-0.4~+0.8
東北太平洋側	-0.9~+0.7	-0.9~+0.9	-0.4~+1.0

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を受けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年7月2日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月3日~8月2日):

オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で天気がぐずつき、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、太平洋高気圧に覆われ晴れる時期がある見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

1週目(7月3日~7月9日):

期間の中頃と期間の終わりには梅雨前線や気圧の谷の影響で、雨の降る日があるでしょう。その他の日は高気圧に覆われ概ね晴れる見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

2週目(7月10日~7月16日):

オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で天気がぐずつき、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3~4週目(7月17日~7月30日):

オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響で天気がぐずつきますが、平年と同様に太平洋高気圧に覆われ晴れる時期もある見込みです。

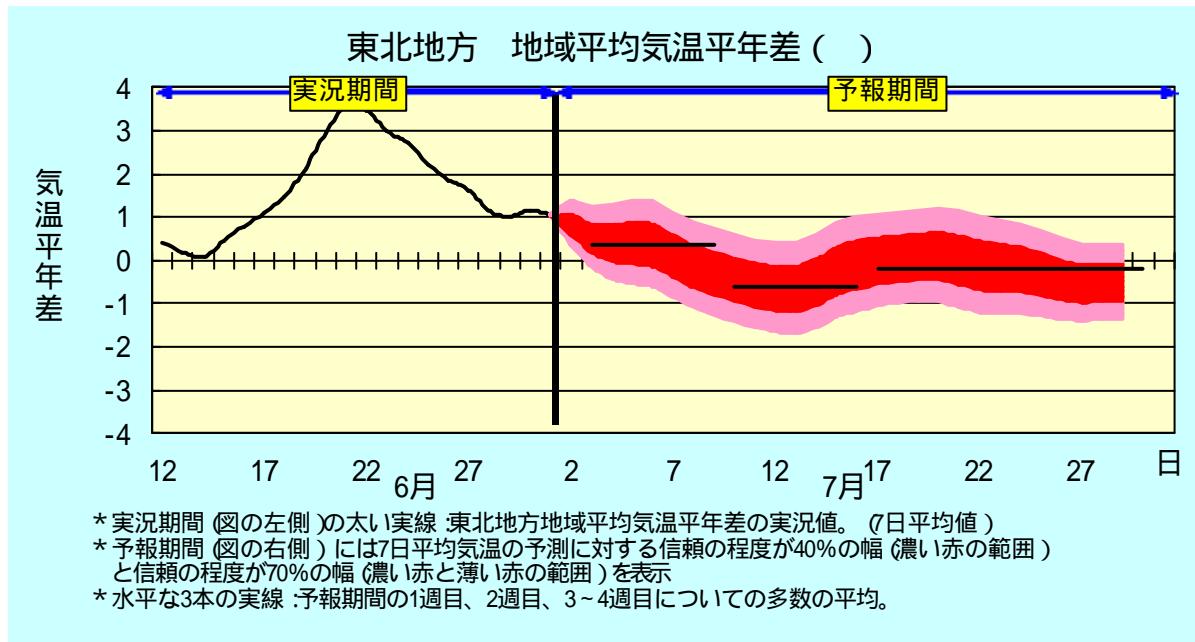
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	13.1日	2.7日	2.7日	7.7日
東北太平洋側	11.3日	2.5日	2.3日	6.5日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目全て「平年並」と予想している。予報は、その他の資料から1週目、2週目を「平年並か低い」とする他は数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

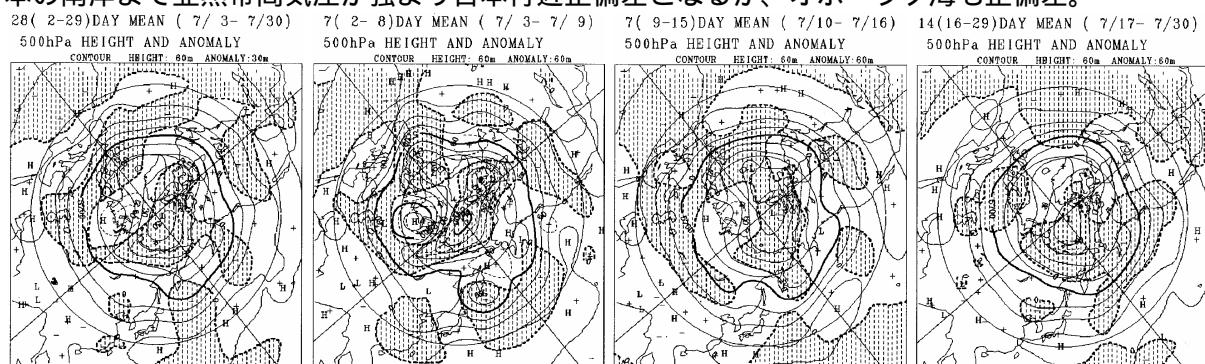


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本の南の亜熱帯高気圧は平年より強く、日本付近は正偏差に覆われる。しかし、カムチャツカ半島から南は負偏差が広がり、オホーツク海の気圧の尾根も明瞭となる。

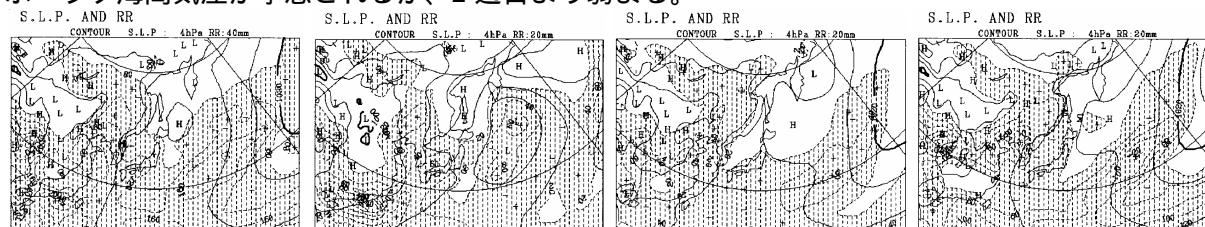
1週目は日本の東海上や西は広く負偏差に覆われるが、日本は正偏差となる。沿海州で気圧の尾根が明瞭となる。2週目も日本付近は正偏差だが、沿海州の気圧の尾根は明瞭。3~4週目は日本の南岸まで亜熱帯高気圧が強まり日本付近正偏差となるが、オホーツク海も正偏差。



地上気圧と降水量：

月平均では、千島近海にオホーツク海高気圧が予想される。日本付近は広く降水域に覆われる。

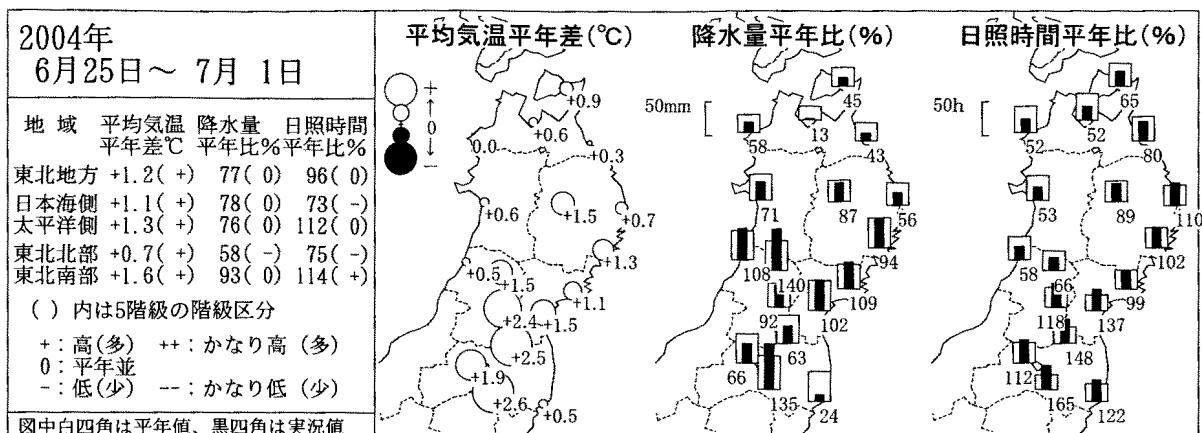
1週目は、三陸沖に台風第8号や第7号に対応する低圧部が、サハリン付近にはオホーツク海高気圧が予想される。まとまった降水域が西日本にかかる。2週目は、千島近海にオホーツク海高気圧が予想されるが、日本付近にまとまった降水域はかかるない。3~4週目も、千島近海にオホーツク海高気圧が予想されるが、2週目より弱まる。



4. 最近1週間(6月25日~7月1日)の天候の経過

期間の前半は、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くた。期間の後半は、東北南部を中心に高気圧に覆われて概ね晴れたが、寒気や寒冷前線の影響で各地で雷雨となり、降ひょうや突風により農作物に被害が発生した。

平均気温は高い。降水量は東北北部で少ない、東北南部で平年並。日照時間は東北北部で少ない、東北南部で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)